

研究開発・臨床評価等

【厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)】

- 令和7年度は、以下の4種類の厚労科研費の研究を実施しました。
- ①障害福祉と医療の連携を促進するために必要な手法の開発のための研究
 - ②支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究
 - ③技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究
 - ④将来的な社会参加の実現に向けた補装具費支給のための研究



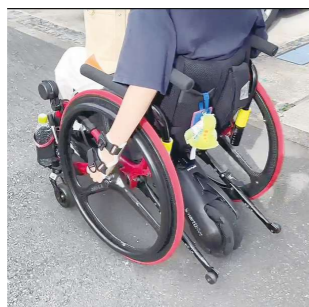
①障害のある方の円滑な受診に向け、実態調査に基づき医療機関の対応マニュアルや情報提供方法等を研究しています。



②支援機器の普及に向け、事例収集や地域ネットワーク構築の連絡会を通じ、モデル拠点の在り方を検討しています。



③補装具「重度障害者用意思伝達装置」の借受け制度や呼び鈴使用の実態調査、および適合や設定時間の調査に協力しました。



④高性能な補装具(アシスト機能付き電動車椅子、リフト機能付き電動車椅子)の費用対効果に関する調査を実施しています。



【特別支援学校での展示会実施】

福祉機器や住環境整備の普及および啓発を目的に、横浜市内の特別支援学校を対象に福祉機器の展示会を開催しています。2011年度から実施し、今年度は5校(北綱島、上菅田、麻生瀬谷、あおば)実施しました。



【ニーズ&アイデアフォーラム】

医療・福祉系、デザイン系、工学系の異なる学校の学生が混成チームを作り、障害のある人のニーズを探りながら支援機器のアイデアを考え、形にする事業の協力をしています。国立障害者リハビリテーションセンター



【ALS患者の暮らしの工夫】

ALS(筋萎縮性側索硬化症)などの進行性疾患を抱える人々の「生活の困りごと」と、それに対する「工夫・対処法」の情報をまとめたデータベースを作成しました。臨床現場の実例をもとに構成されています。(公財)三菱財団



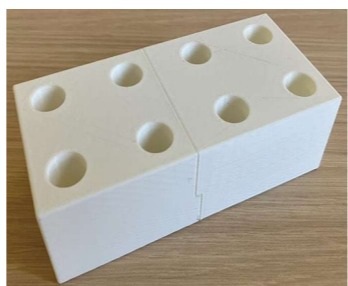
【フライングディスクの電飾化】

フライングディスクがゴールを通過したことをセンサで感知し、LEDを点灯させる装置を製作しました。通過したか分かりにくい場面の解消とゴールが光ることでレクリエーションとしての楽しさも向上します。横浜ラポール



【リウマチ患者のための住環境整備】

「リウマチ患者のための住環境整備ハンドブック」を10年ぶりに大幅に更新しました。これに合わせ、内容をより広くご利用いただけるよう専用のウェブサイトも公開しました。日本工業大学建築学部



【ボールペン組み立て支援具】

就労支援施設で行われるボールペン組立て作業において、部品の向きが分かりにくいことや倒れやすいという課題を解決するための支援具を3Dプリンタを活用して製作しました。リハセンター-就労支援課



【抱きぬいぐるみの評価】

発達障害のある子どもを対象に抱きぬいぐるみの試用調査を行い、主観的な使用感等を把握しました。今回の知見は今後、より良い商品を開発するための基礎データとして役立てていきます。(株)ポーネルド



【チャンス!2025】

体験を通して「好き」を見つける療育センターのイベントに、エンジニアが協力しました。3Dプリンタで製作したハンドスピナーの組み立てや、グライダー飛ばしを体験してもらいました。横浜市西部地域療育センター



【トイカメラを使った運動プログラム】

トイカメラを使った運動プログラムの活用について、横浜ラポールとココヨ(株)と共同研究を開始しました。利用者の自発的な移動や動作を促したり、活動の振り返りを行ったりする際に効果が期待できます。ココヨ(株)



【介護ロボット相談窓口】

令和7年度神奈川県介護生産性向上推進事業(活動支援事業)を受託し、相談窓口を運営しました。相談は154件、体験展示場の来場者数405名、伴走支援した介護施設12箇所、成果報告会(2回)など。神奈川県高齢福祉課

直接的利用者支援



【トラックボールカバー】

脳動脈瘤破裂による四肢麻痺の方で、トラックボールを握り込むように手を置くと、ボールが回らず操作しづらくなる課題を解決するために、握り込んでもボールに触れなくなるカバーを製作しました。



【蛇口レバー】

筋力低下と上肢可動域制限のある方が、自宅の台所水栓を自立して使用したいと希望。自動水栓は不採用となり、レバーを延長。重みで開栓保持が困難となったため、延長部を支える構造物も併せて設置しました。



【車椅子テーブル】

電動車椅子コントローラーとスマホと同時にノートブックPCを活用するためのテーブルを製作。座面クッションと一部膝の上にテーブルを設置する方法を選択し、軽量に安価な三層強化段ボールを用いて作製しました。



【シャワーチェアの座面】

仙骨部に褥瘡のある方で、既製品のシャワーチェアは開口部が大きく臀部が落ち込みやすいため、褥瘡へ負担の少ない形状の座面を試作。その結果を基にメーカーへ依頼し、改良品を製作しました。



【義手ミーティング】

「みんなの義手」をテーマに、専門職と一般ユーザーが共に参加する義手ミーティングを開催。日用品活用のトーク、海外情報の紹介などを行い、活発な情報交換を行いました。ハピリスジャパン&ISPO日本支部



【デザイン学会受賞】

「日本デザイン学会第72回春期研究発表大会」において『リハビリテーション工学技術師による臨床現場での当事者デザイン』が高く評価され、「グッドプレゼンテーション賞」を受賞しました。



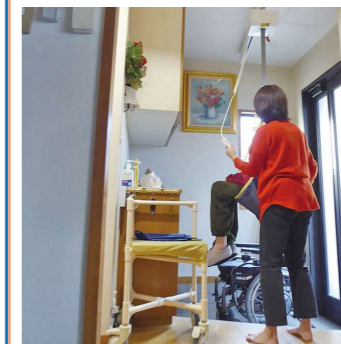
【キッズデザイン賞受賞】

手動車椅子に後付けできるサッカー用フットガードを提案し、スポーツ参加の幅を広げる点と産学官連携の取り組みが評価され、キッズデザイン賞を受賞しました。矢崎化工(株)と共同受賞



【テクニカルショウヨコハマ2026】

「テクニカルショウヨコハマ2026」(第47回工業技術見本市)に出展しました。企業との共同開発製品や介護ロボット等を展示し共同開発・臨床評価事業、リハ事業団のPRをおこなってきました。



【住宅改造・リフト】

玄関での車椅子の移乗について、今まで使用していた用具では不十分になったためリフトを導入しました。また、既存の階段昇降機から玄関の車椅子までリフトで移動できるよう、レール位置を検討しました。



【ホワイトノイズマシン・感覚過敏】

電子レンジの音が苦手な聴覚過敏のある子どものため、当初は仕切りによる防音を検討しましたが、改善は期待できませんでした。ホワイトノイズマシンを試みたところ、音への抵抗感を大幅に和らげることができました。